



スポーツ庁事業

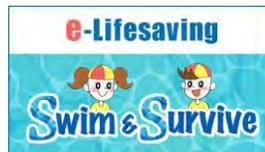
「学校における水難事故防止対策の強化」による実践研究から見えてきたもの



公益財団法人 日本ライフセービング協会

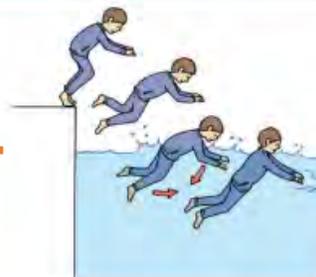
副理事長/教育本部長 松本 貴行

学校法人成城学園 保健体育科専任教諭
消費者庁消費者安全調査委員会 専門委員

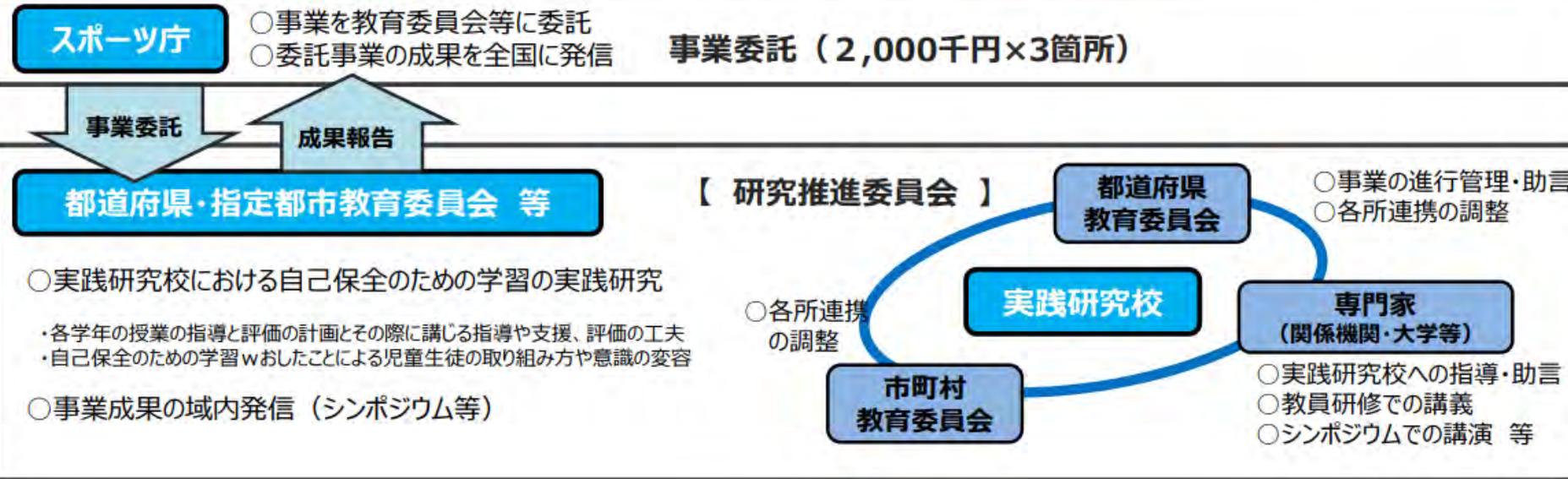


事業概要

学校の水泳の授業等において、児童生徒の命に直結する水難事故防止対策を強化するために、自己保全のための学習（着衣のまま水に落ちた場合の対処の仕方やライフジャケットの活用の仕方など）の指導内容や指導方法等の工夫について実践研究を行う。



実施体制



1 『e-Lifesaving』 × 水泳授業

- a. 小中高編における研究体制（プール実技含む）
- b. プールでの実技授業なし編における研究体制
- c. 養護学校編における研究体制

2 教育委員会・学校 × ライフセービングクラブの指導連携編における研究体制



本当の意味での水難事故防止対策とは？

自己保全のための学習

<p>内容</p>	<p>着衣のまま水に落ちた場合の対処の仕方</p> 	<p>ライフジャケットの活用の仕方</p> 
<p>現状理解</p>	<p>事故が発生した後の対処行動</p>	<p>それ以上危険な状態にならないため</p>
<p>事故防止の観点</p>	<p>危険を自ら回避できる知識</p>	<p>着用の有無を自ら判断し、活用できる能力</p>

水辺における安全知識と技能を広め、誰もが安全に楽しむことのできる社会



安全の自律へ

持続可能なライフセービング教育システム（教育根拠）

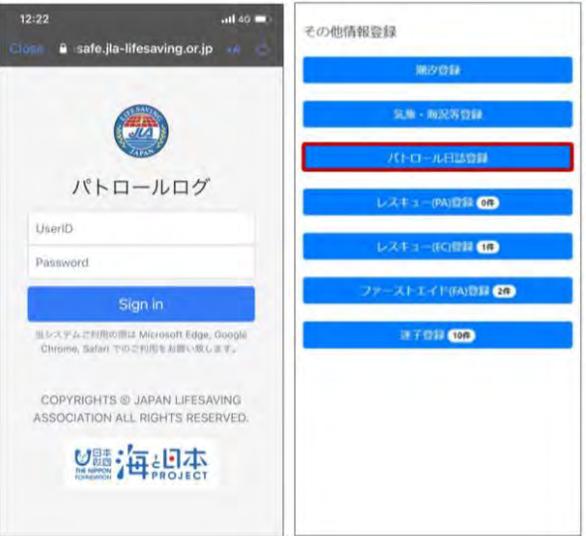


LSによる現場
での諸対応

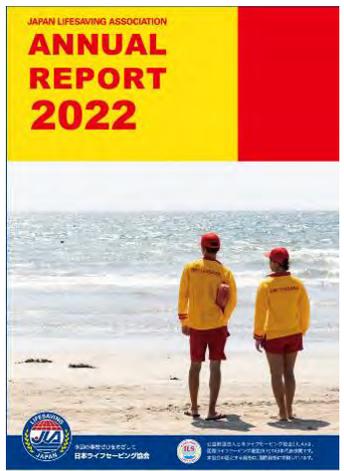


未然防止教育
に向けた活用

e-パトロール
ログへの入力

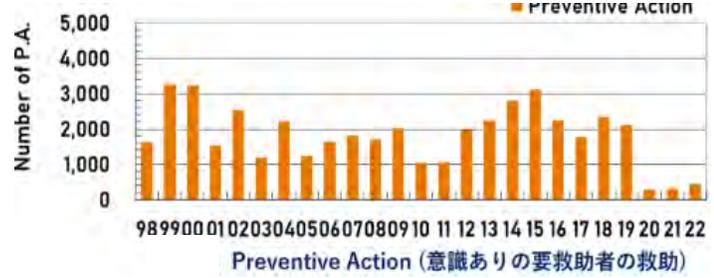


※本事業は、
e-Lifesaving
を活用すること
で学びの効果が
得られることを
検証する意味合
いも



データの公表

JLAによる
統計・分析



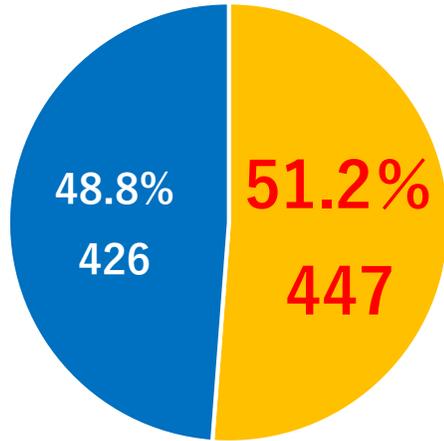
今までに溺れたり、溺れそうになったことはありますか？

→ 約半数の児童・生徒が、溺れの経験がある

※複数回答可

プールのない
小・中学校の
児童・生徒

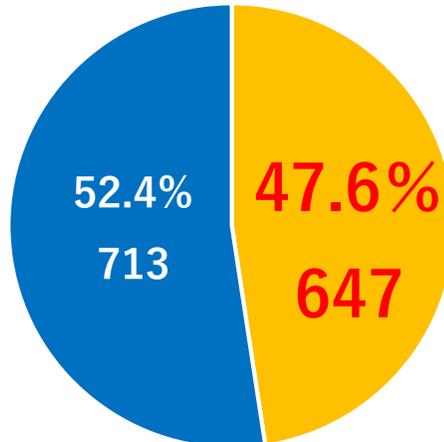
n = 873名



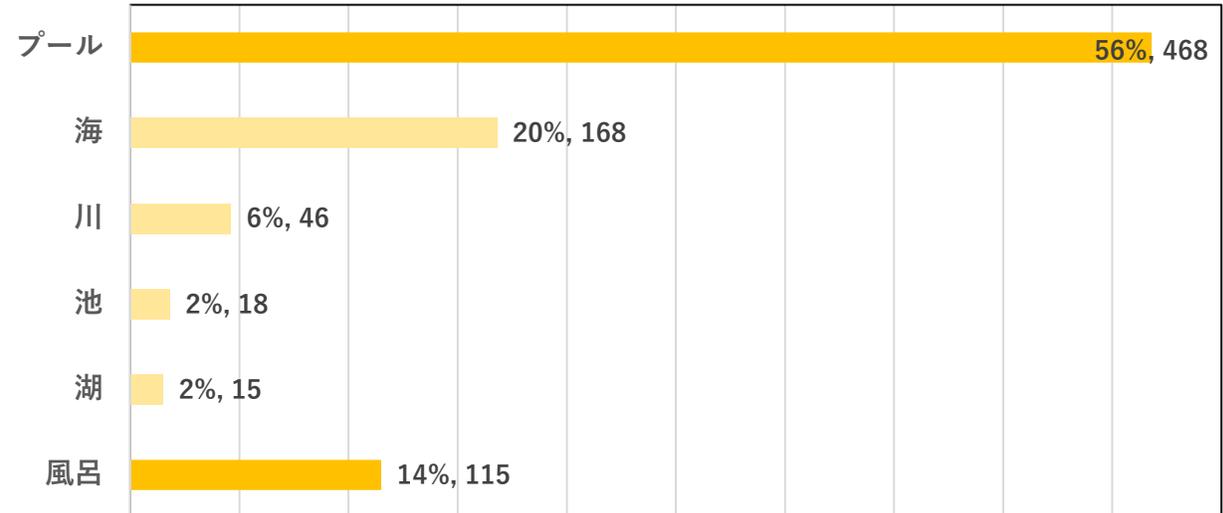
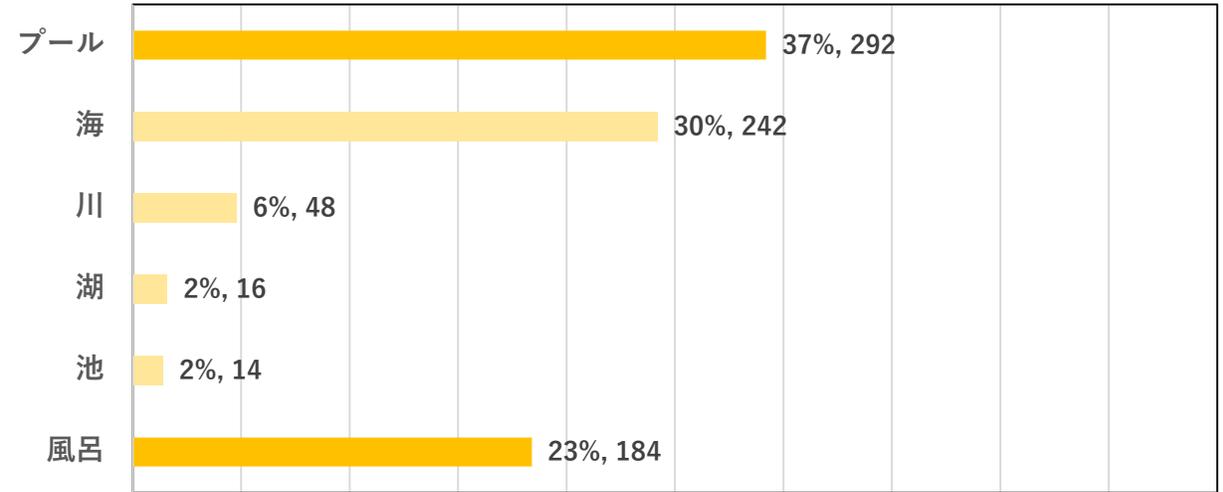
■ ある
■ ない

プールのある
小・中学校の
児童・生徒

n = 1,360名

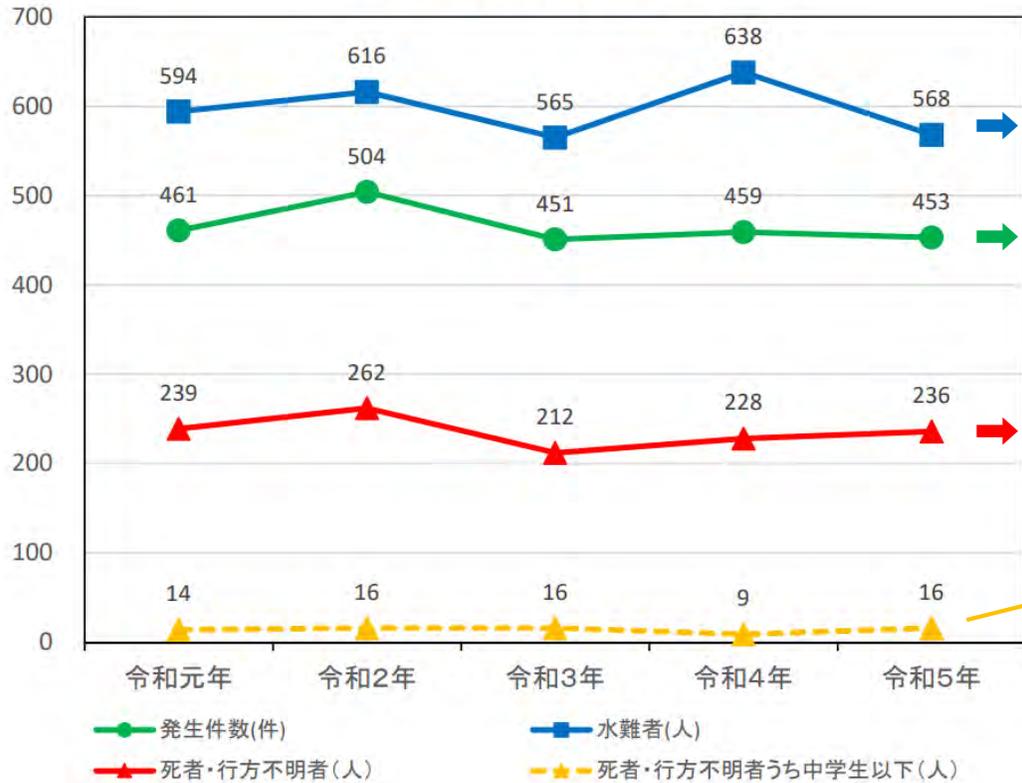


■ ある
■ ない



令和5年夏期における水難の概況分析 (Topic: 中学生以下)

発生件数等の推移

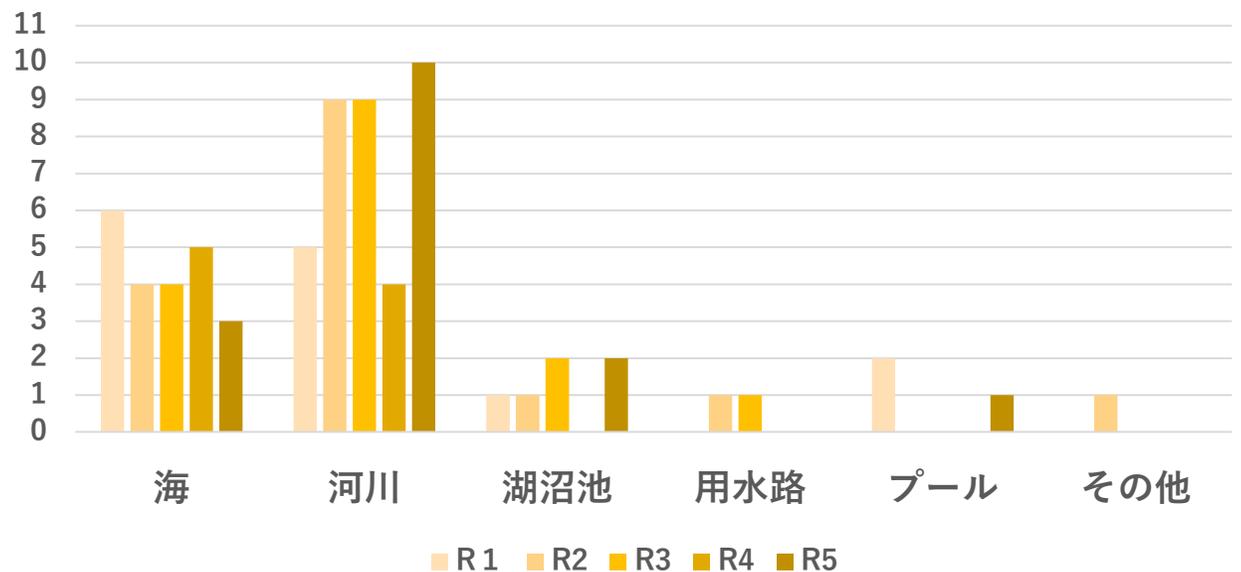


中学生以下は**106人** (18.7%) 前年対比-14人

中学生以下は**49件** (10.8%) 前年対比-1件

中学生以下は**16人** (6.8%) 前年対比+7人

場所別 死者・行方不明者数 (中学生以下)



令和5年夏期における水難の概況分析

～Topic: 中学生以下～

Beach safety report with lifesavers on duty 7/1-9/5, 2023



レスキュー数と応急手当



385

Preventive Action

意識のある人の救助



15

Emergency Care

意識のない人を含む
中等症・重症の人の救助



2,205

First Aid

応急手当



134

Ambulance transportation

救急搬送

レスキューの主な自然要因

レスキュー数の男女比と救助者の年代



31%

Rip Current
離岸流



24%

Wind
風に流される

0-9 13%

10-19 23%

20-29 30%

30-39 12%

40-49 7%

50-59 6%

60- 4%

63%

男性

37%

女性

First Aid における主な対応



693

Jellyfish
クラゲ

41

Heat Stroke
熱中症

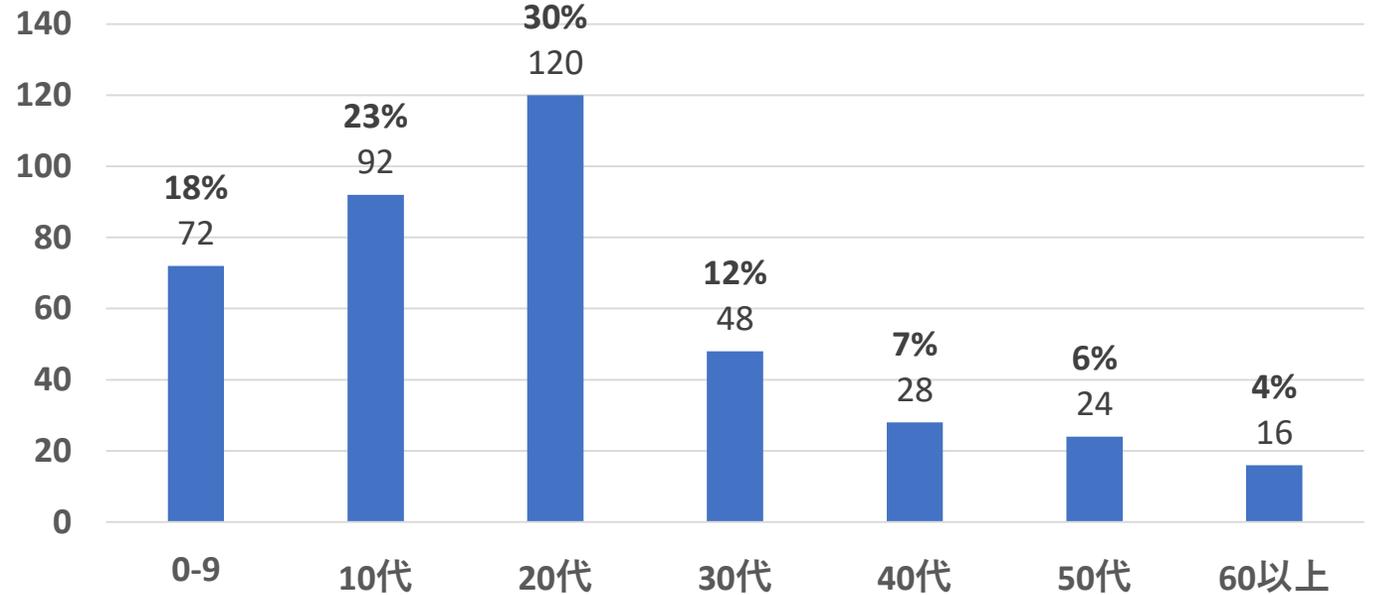


170

Lost Children
迷子対応

救助者の年代

総数400人（速報値）



水泳を取り巻く背景と「水難事故防止教育」の具体的な課題検証

1, 水泳授業の課題 ※今後、外部指導委託や水泳を実施しない学校も

① プール設置率は72% (小中高)

→ さらに減少の一途 (老朽化、維持費膨大)

② 98%が屋外プール

→ 猛暑、雨天、落雷、熱中症アラート

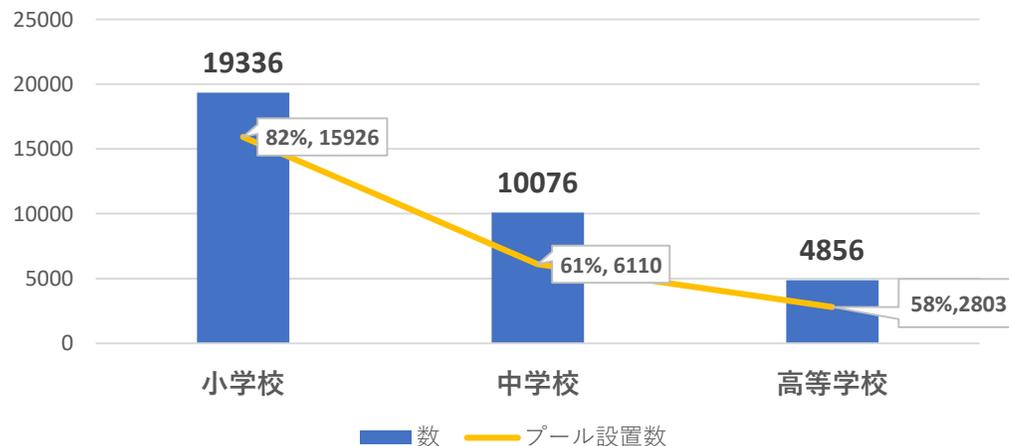
③ 教員の過負担や資質の問題

→ 清掃や水質管理、安全対策や水泳指導に自信が持てない

④ 水難事故防止教育の課題

→ 「背浮き」の体験で本当に事故は防げるか？
プールの無い学校で水泳運動の心得をどう教えれば良い？

学校数とプール設置数 (2021年調査)



動画



小学校5, 6年生の167名を対象とした背浮きの実験※水泳の授業6時間目、ほぼ毎時間、背浮き指導あり

→ 背浮きで**30秒間**、浮いて呼吸を確保できた児童は**53名 (31.7%)**
@外プール、水着

突発的な事故、川の流れや海の波などがある自然環境では困難

日本水難救済会と日本ライフセービング協会の実証実験@海上保安庁横浜海上防災基地 波を人工的に発生させての実験

「背浮き」「浮いて待て」は海では困難 波があると水泳上級者でも1分持たず 必要なのはライフジャケット 東京新聞より



文部科学省の担当者は「背浮きを海で活用する想定では指導していない。あくまで安全確保につながる運動の一環」 東京新聞より

令和5年9月13日

令和5年夏期における水難の概況

警察庁生活安全局生活安全企画課



3 水難の防止対策

水難を未然に防ぐためには、海や河川など、それぞれの自然環境の特徴を理解し、水難につながりやすい危険な場所、危険な行為などを知ることが重要であり、次に掲げる点に留意する必要がある。 ※引用

- ①危険箇所の把握
- ②的確な状況判断
- ③ライフジャケットの活用
- ④遊泳時の安全確保
- ⑤保護者等の付添い

すべてを網羅したICT教材（無料）

e-Lifesaving

Swim & Survive

事前学習 みんなで考えよう! 動画で学ぼう! クイズ!水辺の安全って? 資料集 応援メッセージ お問い合わせ

守ろう!いのち
学び合おう!水辺の安全
Swim & Survive



<p>事前学習</p> <p>プール編</p> <p>海編</p> <p>川編</p>	<p>みんなで考えよう!</p> <p>海のできごと</p> <p>離岸流ってなに?</p> <p>川のできごと</p> <p>ライフセーバーのいい海で</p>	<p>動画で学ぼう!</p> <p>安全なプール活動</p> <p>助かる方法</p> <p>助ける方法</p> <p>実験動画</p>	<p>クイズ!水辺の安全って?</p> <p>初級編</p> <p>中級編</p> <p>上級編</p>
---	--	--	--



【e-Lifesaving 主な掲載一覧】

- 文部科学省 子供の学び応援サイト学習支援コンテンツポータルサイト内 小学校「体育」、中学校「保健体育」
- スポーツ庁 通知「学校における児童生徒等に対する水泳指導等について」
- 消費者庁 子どもの事故防止週間において 「海・川・プール等での水の事故全般に関する参考資料等」
- 海上保安庁 「Water Safety Guide」内、遊泳の安全情報
- こども家庭庁「こどもの事故防止に関する取組事例」掲載

※延べ 223,218User 3,913,871 PV (2020-2023, 9月現在)

動画



主体的、対話的な学びの実践により、
事故防止のための知識や意思決定を構築する



水泳場が確保できなくても、水難事故防止への学びの効果は得られる

ライフジャケットを正しく着て、活用することができますか？

令和4年度
令和の日本型学校体育構築支援事業
④学校における水難事故防止対策の強化より

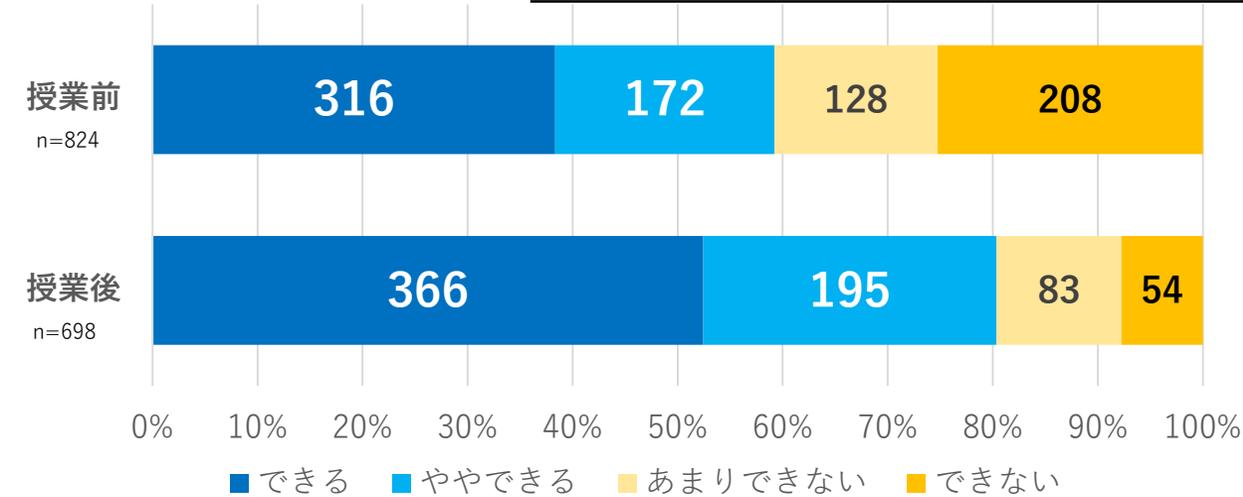


図2. e-Lifesaving + 教室でのライフジャケット着用体験

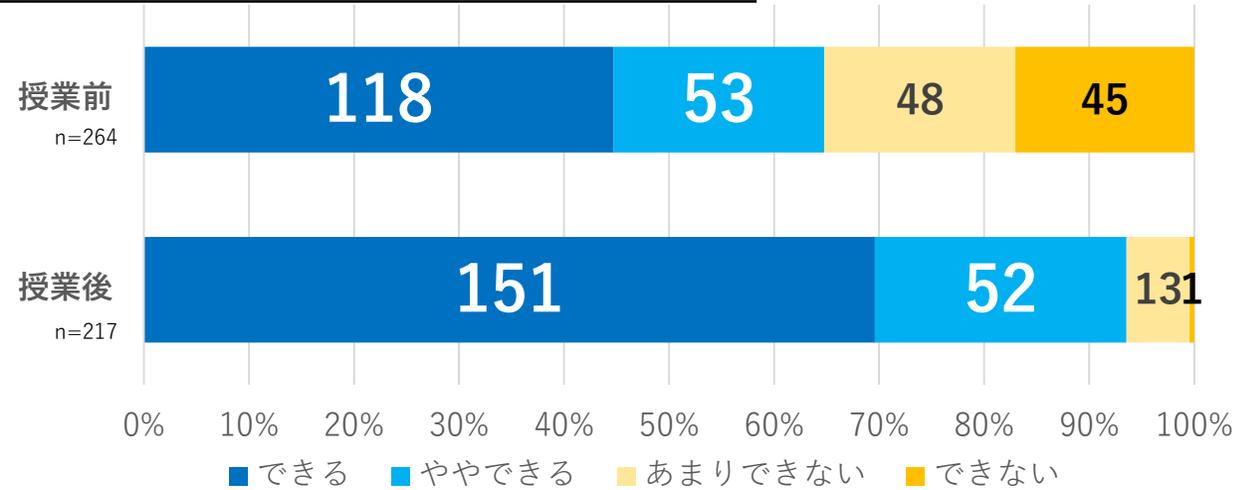


図3. e-Lifesaving + プールでのライフジャケット実技体験



「ややできる」以上が59% → 80%に上昇

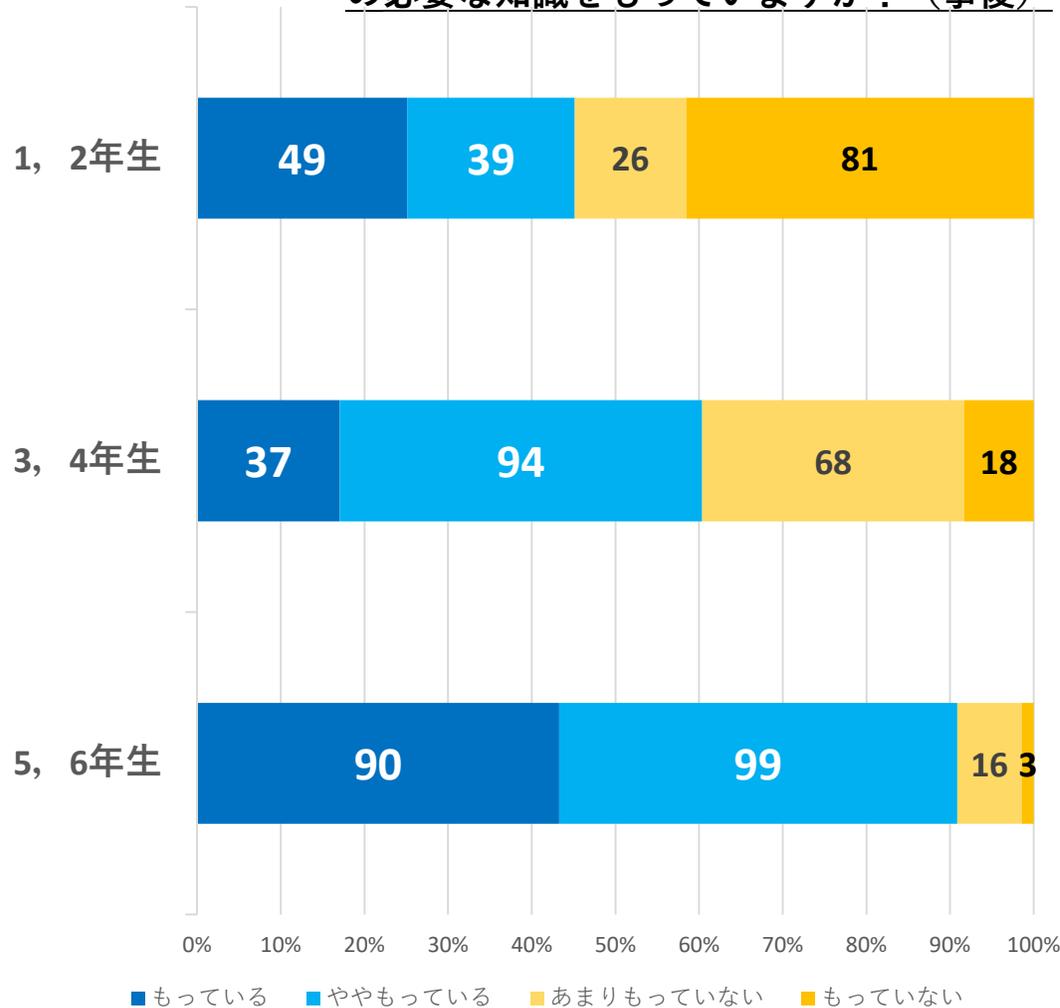
e-Lifesavingを通じてライフジャケットの正しい着方と必要性を実感。プール実技が無くても学びの効果は得られる。

「ややできる」以上が64.8% → 93.6%に大きく上昇

実技を併用することでより高い教育効果が得られる。外部委託の際にも学校と委託先と連携し、実践してほしい水難事故防止教育。

学年があがるにつれて、水難事故防止の知識は上昇する（継続的な学びの重要性）

Q. あなたは水辺でおぼれないため（水難事故防止）の必要な知識をもっていますか？（事後）



各学年で実施したe-Lifesavingのコンテンツ



【使用コンテンツ】

- ・「事前学習」→「プールに入る前に」・「水に入ったら…」
- ・「動画で学ぼう」→「安全なプール活動」→「安全な水への入り方(スリッピン)」
- 「安全な水からの上がり方(1人で上がる場合)」
- 「安全に活動するために(パディ)」



【使用コンテンツ】

- ・「動画で学ぼう」→「助かる方法」→「ライフジャケットの正しい着方」
- 「ライフジャケットの有無による落水のちがい」
- 「複数人で救助を待つ方法①」
- 「複数人で救助を待つ方法②」
- ・「資料集」→「関連動画」→「リバーアドベンチャー」

【指導上工夫した点】

ライフジャケットを実際に持ってきて見せた。事前に教室で着用体験を済ませておくことにより、プールでの実技をスムーズに行うことができた。



【使用コンテンツ】

- ・「資料集」→「水辺の事故を減らすために、今できること」
- ・「動画で学ぼう」→「助かる方法」→「深く①(基本姿勢)」→「深く②(出水姿勢)」
- 「深く③(落水からの浮き身)」
- 「深く④(長く浮いていられる方法)」
- ・「クイズ」水辺の安全って? →「初級編」

【指導上の留意点と工夫した点】

※浮き方には様々な方法があり、全てできなくてもどれか1つでもできれば自分の命を守ることができることを説明した。
※着衣のまま水に落ちた場合の対処法について、近くの人と相談する時間をとって考えさせた。

「ややもっている」以上が

学年があがるにつれて

45.1% ※1, 2年



60.4% ※3, 4年

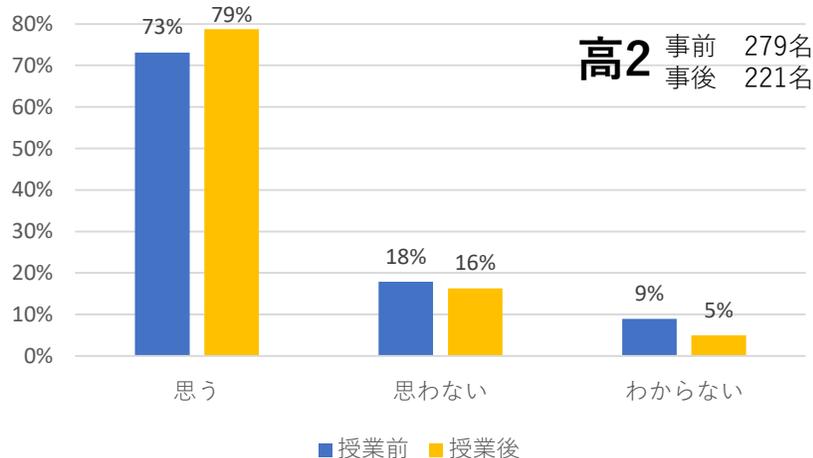
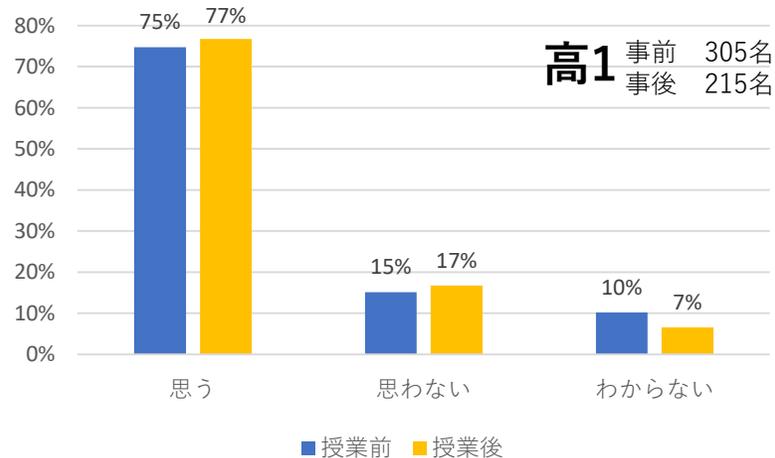
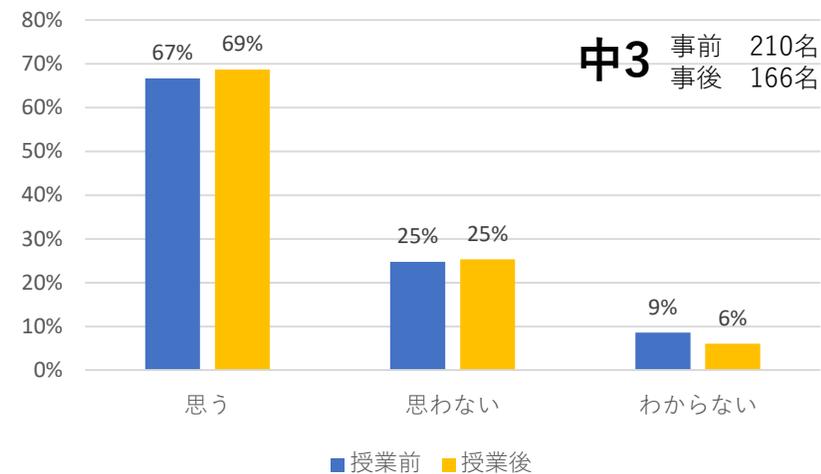
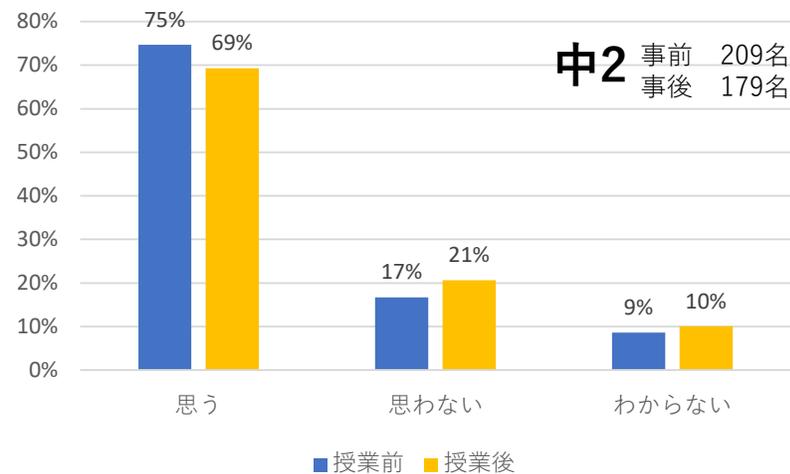
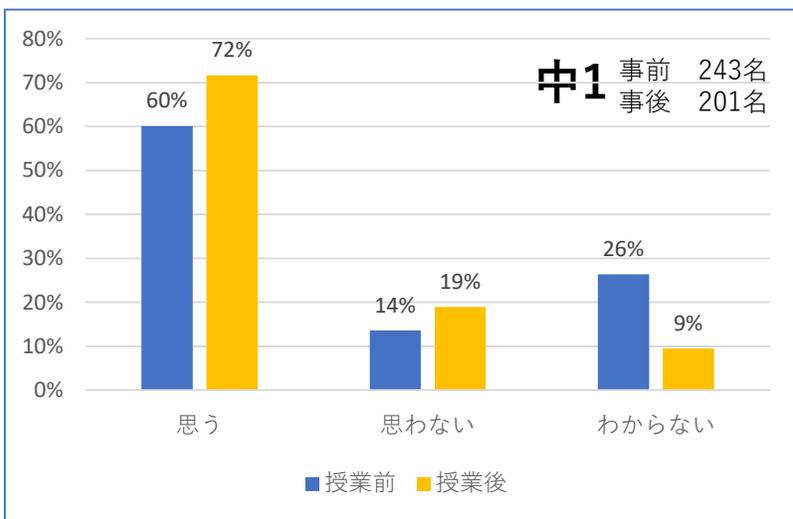


90.9% ※5, 6年

に上昇

資料 1 ; アンケート調査

海や川などへ遊びに行きたいと思いますか？

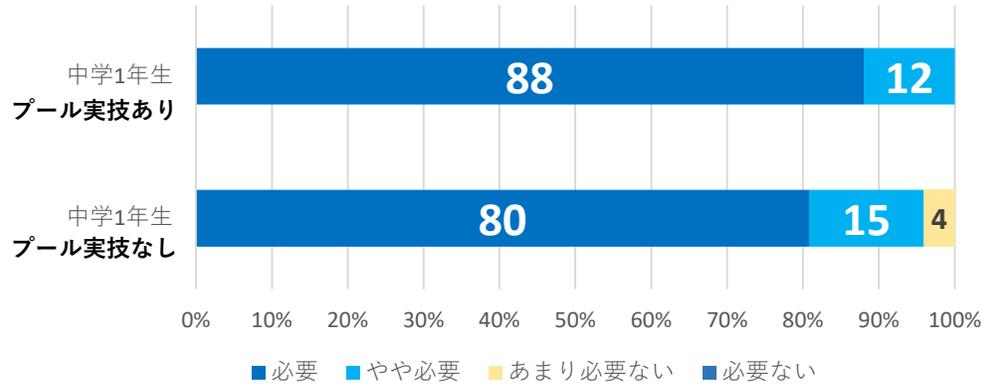


◆特に水泳学習の実技を実施した中1は、授業実施後に「思う」が12%も上昇した。他学年の座学による学習と比較してみても最も変化が大きかった。

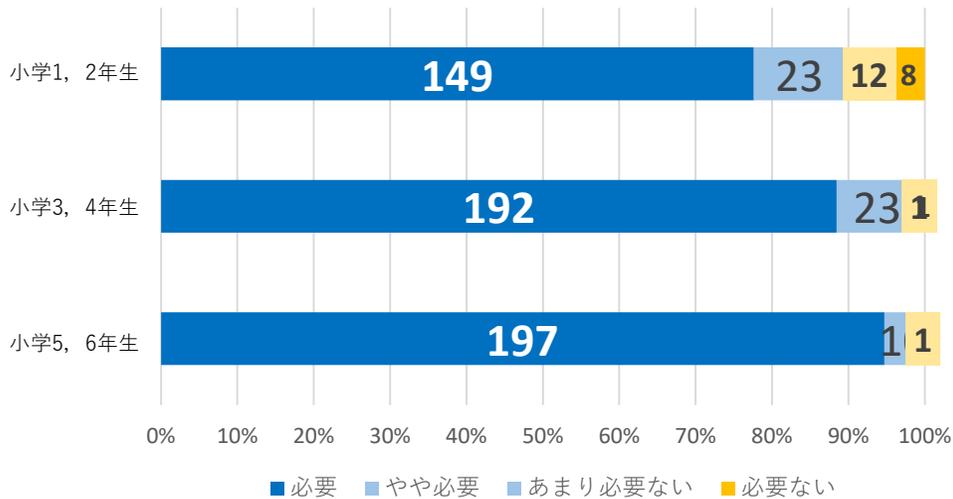
→通常の泳法指導に加え、ライフジャケットを用いた実技を実施することで、水への安心感や親しみ、自信にもつながったのではないだろうか。

e-Lifesavingを用いて自然に向かう上での知識や実践の「そなえ」を携えることで、「海や川へ行きたいと思う」意欲や興味関心を妨げることなく、やや上昇傾向にあった

『すべての学校で、海や川などでの水難事故を防止するための授業は、必要だと思いますか』



→ **プール実技のあるなしに関わらず、生徒は教育の必要性を実感している**



→ **学年があがるにつれ、水難事故防止教育の知識が充実することで、本教育の必要性を実感している**

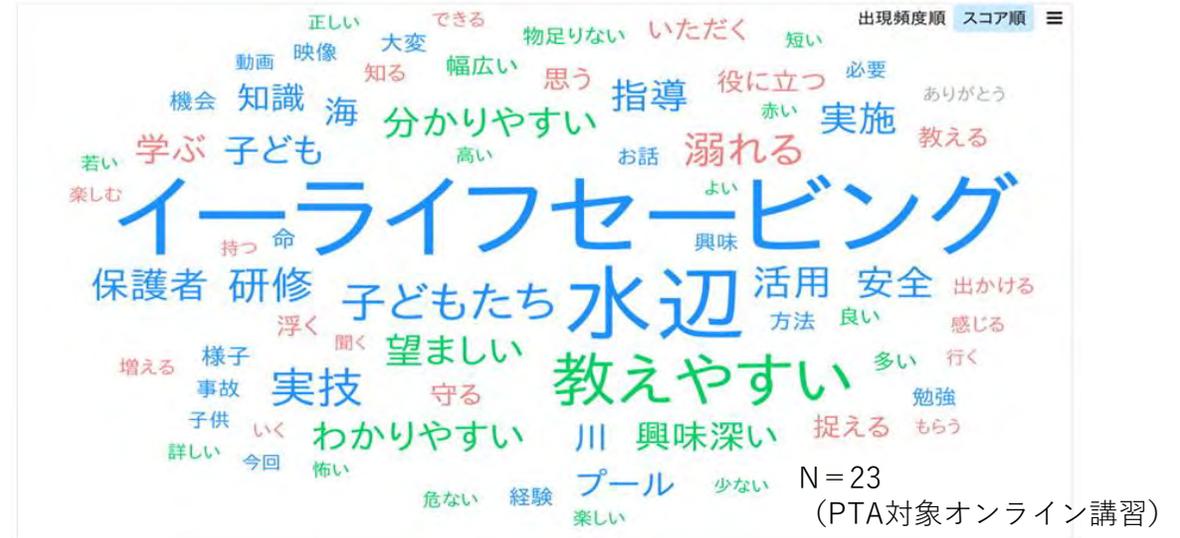
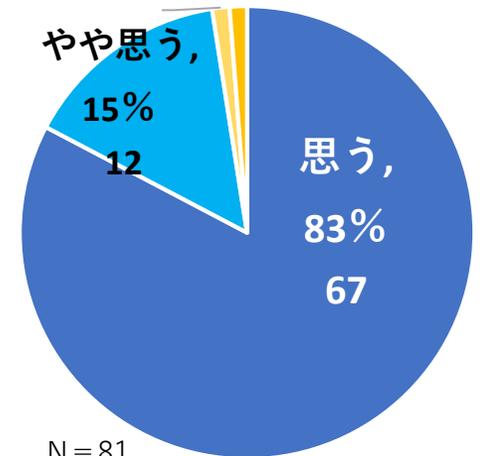


図1 e-Lifesavingを活用したいと思いますか



あまり思わない, 1 思わない, 1



N=81 (教員、保護者対象)

図1 e-Lifesavingを活用したいと思いますか

みんなで考えよう！「海でのできごと」 ワークシートへの記入（中1）



ワークシートはイーライフセービングの「資料集」からダウンロードできるよ！

中学1年生 道徳 2022年 6月22日・29日

海でのできごと 確認シート

① ドラマを見る前に・・・最初の場面で、水辺の安全に注意することを考えて書きましょう。

魚をつた際に海に引きずり込まないようにする。
（海に落ちないようにする）
落ちてしまったときにどうするか考えておく。
（釣りに注意を怠る、助けをよべることを怠る）



② ドラマを見た感想を書きましょう。

ちゃんとした知識を知らないともっと危ない状況になることが分かった。
ジャケットは正しくききよいため。

③ 水辺の安全に関する知識で、初めて知ったことはありましたか。

・インフレーターに少し水をいれておぼれた人にながめてつかると浮くこと。
・リーチ、スロー

⑤ 「学習のポイント」の各ポイントについて、ふり返ってみましょう。

1. 海の状態	とてもおだやかな海だね。いつも同じかな？ どのようなときに違いがあるか、考えてみましょう。 気候や風 波がたつ？ 友だちが気づいたことで、自分たちがう考えはありましたか。 海は、日や時間で変化する。 満潮か干潮か、しかり確認する。 浮力が落ちているかそうではないか。
2. 遊泳エリア	海には安全に遊泳するための旗があるって知っている？ 海の状態をしめす旗には、どのようなものがあるでしょう。 色で海の状態をしめる。 友だちが気づいたことで、自分たちがう考えはありましたか。 海では遊泳エリア内であることを告げる旗が出てくることを確認し、ライフセーバーがいるところへ泳ぐ。
3. さん橋で危険な場所	さん橋で、とくに危険な場所は、どこかな？ 危ない場所を考えてみましょう。 立脚、こ、つりをおとすところ。 海におちてしまうところ。 友だちが気づいたことで、自分たちがう考えはありましたか。 波のうねりや浮力の可能性が高いので、大変危険な波がかりやすい。ため、おぼれたら助けをよべる。また、水辺にはおぼれたら助けをよべる。また、水辺にはおぼれたら助けをよべる。
4. うき具として使える物は？	この画面の中のもので、うき具として使える物はどれかな？ うき具として使える物にはどのようなものがあるでしょう。 プラスチックの入ったインフレーター クーラーボックス、バケツ、ランドセル 友だちが気づいたことで、自分たちがう考えはありましたか。 海で遊泳する時は、必ずうき具を持っていくことがおぼれたら身を守るのに役立つ物を確認しておく。

5. どう思っていたのかな	この時、さん橋にいる2人の気持ちは？ 2人がすぐに行動できなかったのは、なぜでしょう。 2人とも「おはよう、大丈夫かな」と心配している。早く行動できなかったのは、おぼれたら助けをよべる。また、水辺にはおぼれたら助けをよべる。 友だちが気づいたことで、自分たちがう考えはありましたか。 「おぼれたら助けをよべる。また、水辺にはおぼれたら助けをよべる。」 「おぼれたら助けをよべる。また、水辺にはおぼれたら助けをよべる。」
6. リーチとは	つかまることができるものを差し出すときに、安全な姿勢は？ 安全な姿勢は、どのような姿勢でしたか。 海におちないように、後ろに体を垂らす。 おぼれたら助けをよべる。また、水辺にはおぼれたら助けをよべる。 友だちが気づいたことで、自分たちがう考えはありましたか。 リーチをする。立たない。おぼれたら助けをよべる。また、水辺にはおぼれたら助けをよべる。
7. スローとは	ペットボトルは、どうして遠くまで飛ばなかったんだろう？ なぜ飛ばなかったのか、どうすれば飛ぶのか、書きましょう。 水がたまっていて、重さが増え、飛ばない。飛ばない。飛ばない。 友だちが気づいたことで、自分たちがう考えはありましたか。 スロー... 浮力のあるものを投げ入れる方法
8. うきものを 受け取ったら	ペットボトルを受け取ったら、どんな体勢になればいいかな？ 楽な体勢は、どのような体勢でしたか。 空をみるようにうき。指先にくたせ、フックのように。おぼれたら助けをよべる。また、水辺にはおぼれたら助けをよべる。 友だちが気づいたことで、自分たちがう考えはありましたか。 おぼれたら助けをよべる。また、水辺にはおぼれたら助けをよべる。

9. ライフジャケット	ライフジャケットを着ているのに、どうしておぼれそうになっているの？ ライフジャケットを着用するときの注意点を書きましょう。 ちゃんと着用しているか。 友だちが気づいたことで、自分たちがう考えはありましたか。 自分の身体にあるライフジャケットをききよめる。ジャケットと体をしっかりと合わせる。
10. ライフセーバー	ライフセーバーって、どういう人か知っている？ ライフセーバーとはどのような人か、書きましょう。 海でおぼれた人を救う人。 命を助ける。 友だちが気づいたことで、自分たちがう考えはありましたか。 水辺の事故防止を目的としたライフセーバーの救急隊員を呼ぶ。資格が必要
11. おぼれる原因	海でおぼれる おもな原因ってなんだろう？ どのような原因があったか、書きましょう。 おぼれたら助けをよべる。また、水辺にはおぼれたら助けをよべる。 おぼれたら助けをよべる。また、水辺にはおぼれたら助けをよべる。 友だちが気づいたことで、自分たちがう考えはありましたか。 泳力不足、リボート、風、パニック、おぼれたら助けをよべる。また、水辺にはおぼれたら助けをよべる。



みんなで考えよう！「川でのできごと」 ワークシートへの記入（中2）

⑤ 「学習のポイント」の各ポイントについて、ふり返ってみましょう。

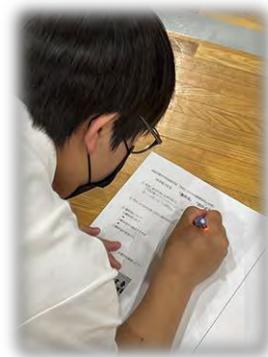
柏

<p>1.</p> 	<p>子どもだけで川に遊びに行くことってどう思うかな？ 誰かが流されたり、おぼれたりしたときに子どもだけで助けることは難しい。大人がいない子どもだけで遊ぶことはとても危険だと思う。 友だちの発言や先生の解説で、新しく気づいたことがあれば書き加えよう。 安全な場所を選ぶときにも大人のカが必要。</p>
<p>2.</p> 	<p>こうしたゴミを見た時、どんな気持ちになるかな？ また、ゴミはこのままにしておくと、どうなるかも書いてみよう。 誰がこんなゴミを捨てたのだろうか？と悲しくなる。川が汚染されてしまう。 友だちの発言や先生の解説で、新しく気づいたことがあれば書き加えよう。 こうしたゴミは自然環境はもちろんのこと、人も傷つけることにもつながってしまう。</p>
<p>3.</p> 	<p>川で遊ぶときはどんなかっこうがよいかな？ 身につけるものや道具などを書いてみよう。 動きやすいが、こつで、滑りにくいサンダル。ライフジャケットを着用する。 友だちの発言や先生の解説で、新しく気づいたことがあれば書き加えよう。 川の石はあべりやすく足場が悪いので、靴の合ったアアシューズやかかとのあるサンダル。</p>
<p>4.</p> 	<p>この川を見てどんなところがあぶないと思う？ 真ん中の白い泡がたくさん出ているところが深くな、ていそいで危ないと思う。 友だちの発言や先生の解説で、新しく気づいたことがあれば書き加えよう。 川の石、大きな石 → 流れが急になる手前は底の石が見えるが、奥は見えにくい → 深い</p>
<p>5.</p> 	<p>もしも、川でサンダルが流されてしまったらどうすればよいかな？ 追いかけていく途中で転んでしまうと危険なのであきらめる。または大人に頼む。 友だちの発言や先生の解説で、新しく気づいたことがあれば書き加えよう。 大人もライフジャケットを着ていなければ危険なので無理に追いかけない。</p>

<p>6.</p> 	<p>119 番通報をしたら、どんなことを伝えればよいかな？ 伝える内容をできるだけ書いてみよう。 。場所 。その人が今どういう状況なのか 。名前 友だちの発言や先生の解説で、新しく気づいたことがあれば書き加えよう。 「救急です」 → 「どこで」、「た木が」、「どうなっているか」、 上流から見て「左岸」、「右岸」という表現をする。</p>
<p>7.</p> 	<p>ライフジャケットを着るとき、どんなことに気をつけたらよいかな？ 自分の体に合ったサイズに調整する。 友だちの発言や先生の解説で、新しく気づいたことがあれば書き加えよう。 チャックやめ具をきちんとしめる。</p>
<p>8.</p> 	<p>ライフジャケットを着ているときに流されたらどうすればよいかな？ 手足をバタバタさせずに、全身の力をぬいて腕を横に広げ、あおむきになる。 友だちの発言や先生の解説で、新しく気づいたことがあれば書き加えよう。 絶対に立とうとしない。 → 足が石などにはさず、息ができなくなってしまう。</p>
<p>9.</p> 	<p>川に遊びに行くときは、どんなことに気をつければよいかな？ 絶対に子どもだけで行かない。 遊ぶときにはライフジャケットを着用する。 危険に見える場所には近づかない。 友だちの発言や先生の解説で、新しく気づいたことがあれば書き加えよう。 アアシューズを準備しておく。 遊ぶ場所や上流の天気と事前に調べておく。 自分の命が1番大切!!</p>



動画



みんなで考えよう！「離岸流ってなに？」 ワークシートへの記入（中3）

成城学園中学校高等学校「学校における水難事故防止対策」

中学校3年生 「離岸流」 「助かる方法」

佳組

-memo-

- ① 安全に遊ぶために心がけること
- ・準備体操やライフジャケットの正しい着用
 - ・海へ入る前に近くの建物など目印となるものを決めておく
 - ・その日の安全な場所や注意点などをあらかじめ

- ② 気をつけなければいけない風の向きは？
- 波が海へ吹く風

- ③ 離岸流について
- 離岸流とは？
 - 沖に向かう流れ
 - 離岸流から脱出する方法
 - 落ちていて浜と平行に移動して泳いで戻る
 - 離岸流の見分け方
 - ・波がくすねにくい
 - ・海水の色が他の波とくすねに違って見える
 - ・ゴミがたまっている

- ④ ライフジャケット ☆着方を確認しよう！
- 役割：浮力、保温、けが防止

- ⑤ 「助けてサイン」…浮力がたまたまれている時



大きく手をひく

- ⑥ 一番大切なのは「事故を未然に防ごう」

<感想>

ここ最近へあまり行っていないから、気を抜くと死や事故ととなりかねないのだと改めて知った。水難事故は突然やってくるが、知識をつけ、対策することができるので、今回の授業はとても有益なものだった。もし海へ行く機会があれば、入る前に確認してから楽しく遊ばれたいと思う。

ピンクのサインをえらぶ

動画

いま
今からライフセーバーが
離岸流の見分け方を
説明してくれるよ！



動画再生まであと 3 秒



ワークシートへの記入 (高1)

高校1年生対象 『水難事故防止対策の強化 ～海編～』

1. 海の楽しさってどんなところかな? 経験やイメージ何でも OK!

- 波があるところ
- 魚とか海の生き物がいるところ
- 夕やけとかの景色がキレイなところ

2. 海に行く前にどんな準備が必要かな? 心がけや準備するコトやモノは? (事前)

- 水着
- ゴーグル
- 飲み物
- 浮き輪
- タオル
- 帽子
- ライフジャケット

3. 海で遊ぶ時どんなことに気をつけたらいいかな? (直前、入る時)

- ライフジャケットを確認する
- ライフジャケットの確認
- 潮の満ち引き
- 津波対策

4. 万一、着衣のまま水に落ちた場合の対処法は?

5. ライフジャケットの効果と、万一の際、救助を待つ方法は?

6. 日本の自然領域における溺水事故を1件でも減らすために最も重要なことは?

1年 E組 氏名

高校1年生対象 『水難事故防止対策の強化 ～海編～』

1. 海の楽しさってどんなところかな? 経験やイメージ何でも OK!

- きれいな景色が見れる
- 夏っぽい感じがする
- きれいな海の生き物に見える

2. 海に行く前にどんな準備が必要かな? 心がけや準備するコトやモノは? (事前)

- おんを家で行く
- 日焼け対策
- 熱中症対策
- 夕やけ

3. 海で遊ぶ時どんなことに気をつけたらいいかな? (直前、入る時)

- ライフジャケットを確認する
- ライフジャケットの確認
- 潮の満ち引き
- 津波対策

4. 万一、着衣のまま水に落ちた場合の対処法は?

5. ライフジャケットの効果と、万一の際、救助を待つ方法は?

6. 日本の自然領域における溺水事故を1件でも減らすために最も重要なことは?

1年 E組 氏名

事前学習 海編

教えて! ライフセーバー



➤ 溺水事故予防・普及活動の推進

- ① ナショナルデータの一元化(官民連携)
- ② 溺水事故要因の整理と重点ポイントのコンセンサス
- ③ WS教育促進や溺水事故予防のための予算支援
(授業・研修・啓発・人材育成・ライフジャケット等)
- ④ WS教育のナショナルフレームワーク策定

参考-5 交通安全に関する財政措置

第1表 陸上交通安全対策関係予算分野別総括表

(単位：百万円)

事 項	令和3年度 当初予算額	令和4年度 当初予算額	令和5年度 当初予算額	比 較 増減額	令和3年度 決 算 額
2 交通安全思想の普及徹底	651	703	755	52	39
(1) 交通安全思想普及推進事業 (内閣府)	47	45	45	—	36
(2) 交通安全教育・普及活動の推進 (警察庁)	20	23	27	4	—
(3) 交通安全教育指導等 (文部科学省)	581	632	680	48	—
(4) 飲酒運転事犯者処遇の充実強化 (法務省)	3	3	3	—	3

R5年度予算 約7.6億円 (内閣府・警察庁・文科省・法務省)

令和4年における水難の概況 (年間)

水難者 1,640人 (うち死者・行方不明者727人)

→ **44.3%の人が命を落としている** ※交通事故の死亡率は0.85%

→ このうち、**中学生以下は198人<<12.1%>>** (うち死者・行方不明者は**26人**)

